

戒詳偽

名稱

子松源八時達は、出雲の家士射藝の師也、老て山心と號す、爲人方正、淳朴比類なし、○中市店にいたり、盃を買て、その大に心を愜ふを擇て、瑕なきやととふ、市人なしと答へたれば、頓て價を出し、盃を懷にしてかへりしを、妻熟視て、杯のうらの糸底に瑕あるを見出し、かくといへば、源八また懷にして彼所に往、盃を返して、何故に我を欺ぞといふ、市人過を謝し、値を返さんといふ時、源八我は欺を受ることを欲せず、故に盃を返す也、値を惜にはあらず、汝は値を欲する故に我を欺く也、いまわれ欺をうけざれば望足る、汝も亦値を得れば望たれり、是兩ながら望たれば、何ぞ値を返すをうけんやといひ捨てかへる、

〔信玄家法〕下「每遍不可虚言事、神詫曰、雖非正直、一旦之依怙、終蒙日月之憐、付武略之時者、可依時宜歟、孫子曰、辟實而擊虚、

諂諛

諂諛ハ、ヘツラフト云ヒ、オモネルト云ヒ、コプト云ヒ、又追從トモ云フ、利ノ爲ニ、他ノ意ヲ迎ヘテ、以テ強ヒテ其歡心ヲ得ントスルヲ謂フナリ、

〔新撰字鏡〕言譏字衍市儷二反、上、不實言也、諛諛也、戸豆良不、又阿佐牟久、諛諛以珠反、不擇、是非也、

〔類聚名義抄〕人倭ヘツラフ 倭倭 〔同〕言五諂和音點ヘツラフ 詐測駕反 諛俗歟ヘツラフ 諛正

〔伊呂波字類抄〕人部 諂ヘツラフ 諂テム 諛倍 泊 詬 健 詞 協 倭 譎已上同 〔同〕

〔天〕疊字 諂諛

〔下學集〕下態藝 諂二諛同字

〔書言字考節用集〕八言辭 諂諛 諛同 倭同 〔同〕九言辭 諂諛